

中国農業科学院草原研究所を訪問しました（2026/8/7～15）

テーマ：災害科学、砂漠化、スローオンセット型災害、乾燥地の持続可能性、国際共同研究

会場：中国内モンゴル自治区フフホト市、オルドス市、パオトウ市

URL：<https://gri.caas.cn/>

当研究所災害レジリエンス共創研究プロジェクトおよび科研費（基盤研究（A）、23H00029）の一環として、原裕太助教（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス）が中国農業科学院草原研究所（Institute of Grassland Research of CAAS）を訪問し、国際共同研究の展開と連携について協議を行いました。

原助教はスローオンセット型災害と乾燥地の持続可能性について研究しており、内モンゴル自治区滞在中、同研究所本部（フフホト市街）のほか、同研究所の農牧交錯区試験示範基地（フフホト市トゥムド左旗）、オルドス沙地草原試験示範基地（オルドス市ダラト旗）等の試験場、黄河中流域の研究・実践フィールドを訪れ、韓文軍教授（草原生態学）をはじめ現地の専門家と議論を重ねました。

中国農業科学院は中国農業農村部（省庁）が所管する、農業分野における中国最高峰の学術研究機関であり、草原研究所はその構成組織の一つです。1963年に設立され、生態学、土壌学、畜産学、経済学、リモートセンシングなどの研究者を抱えています。内モンゴルのステップ地帯を中心に、チベット高原やタリム盆地、雲貴高原に研究サイトを有し、国連食糧農業機関（FAO）や欧州・アジア各国の学術研究機関とも国際共同研究を展開しています。



草原研究所本部で韓文軍教授（右）と



実験圃場の視察



道路を横断するヤギの群れ



塩類集積の影響を受ける灌漑農地